愛知教育大学　2014 年度卒業論文概要

小学生の地域イメージを取り入れた社会科副読本の提案

杉浦 裕介

本研究の目的は，地域の現状に合った親しみやすい社会科副読本にするために，小学生が抱く地域イメージを反映させ，新たな社会科副読本の単元を提案することである．

研究の背景として，対象地域である愛知県碧南市の社会科副読本を分析したところ，1993 年の初版から 2014 年度版までほとんど内容や記述が変化しておらず，地域の現状との差異が明らかになった．そこで，碧南市内の小学校に通う対象児童が日常生活や学校での地域学習の中で抱く地域イメージの調査と碧南市内の小学校に勤務している対象教員の社会科副読本及び地域学習に関する実態調査を行った．

その結果，現在の社会科副読本だけでは地域を把握することができず，教員の多くが現在の社会科副読本の使いづらさを指摘していた．よって，教員にとっても社会科副読本の改善が必要であることがわかった．また，小学生が抱く地域イメージでは，社会科副読本にほとんど掲載されていない行事・祭礼や公共施設,産業が上位に挙げられたことから，社会科副読本の内容と小学生の地域イメージの差異が明らかになった．特に,「元気ッス！へきなん」という行事を挙げた小学生が圧倒的に多く，これを教材として社会科副読本を作成することは有効であると考えた．

以上を踏まえて，小学生の地域イメージを取り入れた新たな社会科副読本を提案した．作成にあたっては関係機関への取材などを行うことで，地域の現状を反映することに努めた．その結果，小学生にとって親しみやすく，地域への誇りと愛着をもちやすい社会科副読本にすることができたと考えている．

しかし本研究では，社会科副読本の一部の単元を作成・提案したのみである．そのため今後は，本研究のような小学生の地域イメージを取り入れた社会科副読本を実際に作成し，それをもとに授業実践をすることで，小学生の地域イメージを取り入れた社会科副読本の有用性がより明確になると考えている．

指導教員：近藤 裕幸（社会科教育講座）